

令和元年第 16 回美唄市教育委員会会議録

- 1 と き 令和元年 12 月 26 日（木）
午後 4 時 00 分～午後 4 時 36 分
- 2 ところ 教育委員室
- 3 出席委員
天野教育長 高橋教育委員 齋藤教育委員 土肥教育委員 今野教育委員
- 4 説明員
森川教育部長 阿部学務課長 高橋学務課長補佐 桜井学務課長補佐
村上指導室長 日下学校給食センター所長 谷村生涯学習・スポーツ振興課長
谷川生涯学習・スポーツ振興課長補佐 青木総務係長
- 5 開会
今野委員を署名委員に指名
会期を 1 日と決定
- 6 議件名

議案第 55 号	美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件
議案第 56 号	美唄市営野球場条例施行規則の一部改正の件
議案第 57 号	社会教育委員委嘱の件
議案第 58 号	公民館運営審議会委員委嘱の件
議案第 59 号	教育長職務代理者の指名の件
その他 1	美唄市民会館運営審議会委員委嘱について
その他 2	令和元年第 4 回市議会定例会一般質問について

概要記録

16:00

●天野教育長 ただ今から、令和元年第16回美唄市教育委員会議を開会します。順序第1 会議録署名委員に今野委員を指名します。次に順序第2 会期の決定につきましてとは本日1日とします。次に順序第3 教育長報告、行事報告・行事予定について、事務局から説明をお願いします。

●森川教育部長 それでは資料に基づきまして令和元年第15回教育委員会議以降の教育長が出席された会議、行事等を報告いたします。

※教育長報告（添付資料）

※行事報告、行事予定説明（添付資料）

●天野教育長 教育長報告、行事報告・行事予定について事務局から説明がありましたが、何かご質問はありませんか。

●各委員 ありません。

●天野教育長 なければ次に移ります。次に順序第4 議案第55号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件を議題とするところですが、非公開案件とすることから、順番を繰り上げ、先に議案第59号 教育長職務代理者の指名の件を議題とさせていただきます。第3回市議会定例会本会議において、議会の同意を得、9月21日付で「教育長」として就任いたしました。来る12月31日で任期が満了するため、今月開催の第4回市議会定例会本会議において、1月1日から3年間の任期で再び「教育長」としてご同意をいただいた次第です。このため、改めて教育長職務代理者の指名をさせていただきますが、関係法令の説明につきましては、前回と同様ですので、省略させていただくこととします。それでは、教育長職務代理者の指名をさせていただきます。引き続き、高橋泰浄委員を指名いたします。高橋委員、いかがでしょうか。

●高橋委員 ただいまご指名をいただきましたが、お受けしたいと思います。

●天野教育長 ありがとうございます。それでは、教育長職務代理者として高橋委員を選任することといたします。よろしくお願いいたします。ここで傍聴の方を入れますので少しお待ちください。

●天野教育長 それでは会議を再開いたします。次に、議案第55号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件について、事務局から説明をお願いします。

●阿部学務課長 議案第55号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の

件についてご説明申し上げます。本件につきましては、南美唄小学校が令和3年3月31日をもって東小学校と統合することが決定いたしました。このことによりまして、南美唄小学校の通学区域を東小学校の通学区域に編入をしようとする改正でございます。次のページ新旧対照表をご覧ください。第4回市議会定例会で条例案を可決していただきましたので、あわせて改正するものでございます。旧の方でございますが指定校、中央小学校、東小学校、南美唄小学校と3つ並んでおりますが、この南美唄小学校の通学区域、南美唄町全域と進徳町東部分の通学区域について、新たに、東小学校の通学区域に加えるというものでございます。なお、この改正に合わせまして令和2年度の新入学者で、南美唄小学校の通学区域のお子さんについては、希望される場合は東小学校の通学区域に区域外通学を認めるという措置をとろうというものでございます。私の説明は以上でございます。

●天野教育長 ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆さまから何か質問等ございませんか。

●各委員 ありません。

●天野教育長 質問がないようですので、議案第55号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件については、原案どおり改正することによってよろしいでしょうか。それでは原案どおり可決します。次に議案第56号 美唄市営野球場条例施行規則の一部改正の件について、事務局から説明をお願いします。

●谷村生涯学習・スポーツ振興課長 議案第56号 美唄市営野球場条例施行規則の一部改正の件についてご説明させていただきます。本件は美唄市営野球場の使用料の減免基準、使用料の還付、使用者の遵守事項に関し、他の施設の規定との整合性を図るため改正を行うほか、減免基準により発生する端数処理について、規定するため改正するものであります。2枚めくっていただきますと、新旧対照表がございます。こちらを見ていただきたいと思います。まず上の方の第3条ですが、新の方を見ていただくと「ただし、減額する場合、積算した使用料に10円未満の端数が生じたときは、10円未満を切り捨てる。」という形で、ただし書きとして10円未満の端数が生じた場合、切り捨てる規定を設けようとするものです。次に旧の方を見ていただいて、(1)から(3)というところで、「(3) その他特別の事由があると認めるとき。免除又は減額」とあります。これら3つの基準しかなかったのですが、これを細分化するために、新の方に(1)から(7)ということで、基準を詳細に規則の中に規定しようとするものです。なお、この新設した範囲につきましては、これまで、別途、審査基準というもので規定していたものを、今回規則の中で条文化したものでございます。続きまして、見出しの「(使用料の還付)」、その下にあります

「(使用者の遵守事項)」につきましては、他の施設と同様に新設をしたところでございます。また、次のページを見ていただきますと、「(指定管理者に関する読替規定)」という見出しがございますが、旧の方ではそれぞれ文書で規定しておりましたが、こちら他施設の規則と合わせる形をとりまして、表記方法を表として規定するものでございます。改正の主な理由につきましては以上になります。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

●天野教育長 ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆さまから何か質問等ございませんか。

●今野委員 使用区分が幼稚園とか福祉関係団体とか入っていますが、これは野球に関すること以外でも使用できるようにするということですか。

●谷村生涯学習・スポーツ振興課長 この規則につきまして、野球場を使用する場合の規定となりますが、野球場の中でスポーツ・運動を目的として使用する場合該当しております。その部分に幼稚園、保育所などが保育活動・教育活動という形の制限はありますが、その中でスポーツや運動で使う場合は該当となります。

●天野教育長 今野委員、よろしいですか。

●今野委員 はい。

●天野教育長 他に何か質問等ございませんか。質問がないようですので議案第 56 号 美唄市営野球場条例施行規則の一部改正の件については、原案どおり改正することによろしいでしょうか。

●各委員 はい。

●天野教育長 それでは原案どおり可決します。次に、議案第 57 号 社会教育委員委嘱の件、関連がありますので、議案第 58 号 公民館運営審議会委員委嘱の件について一括して、事務局から説明をお願いします。

●谷川生涯学習・スポーツ振興課長 議案第 57 号 社会教育委員委嘱の件及び、議案第 58 号 公民館運営審議会委員委嘱の件、この 2 件について一括して、ご説明申し上げます。これらの 2 件につきましては、社会教育法の第 15 条及び第 30 条第 1 項の規定により、それぞれの委員を委嘱しようとするもので、その場合は社会教育委員と公民館運営審議会委員を兼ねていただき、委嘱させていただきたいと考えております。委員につきましてはお手元にあります表のとおりになりますが、今回新任となる委員につきましては、学校関係に所属します鈴木祐子氏、青年団体に所属する廣瀬公一氏と、美唄市文化協会が活動休止により委員が欠員となっていました文化団体から廣岡文衛氏の 3 名で、その他の 7 名につきましては再任となります。任期についてであります、本年 10 月 31 日で任期満了となっておりましたが、10

月の時点で新たな委員が来ないのであれば補充しなければ、ならないところでしたが、文化団体からの委員の選出について、時間を要したことから今回の提案となったところであります。これによりまして任期につきましては、令和2年1月1日から令和3年12月31日までの2年間となります。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

●天野教育長 ただいま事務局より、議案第57号 社会教育委員委嘱の件、議案第58号 公民館運営審議会委員委嘱の件について説明がありましたが、何かご質問等はございませんか。

●各委員 ありません。

●天野教育長 なければ議案第57号 社会教育委員委嘱の件、議案第58号 公民館運営審議会委員委嘱の件について議案のとおり承認することによろしいですか。

●各委員 はい。

●天野教育長 それでは原案のとおり可決します。次に、その他1 美唄市民会館運営審議会委員委嘱について、事務局から説明をお願いします。

●谷村生涯学習・スポーツ振興課長 その他1 美唄市民会館運営審議会委員委嘱の件について、私の方からご報告申し上げます。本件につきましては、ただ今ご審議いただきました、社会教育委員並びに公民館運営審議会委員と兼ねて委嘱するものでございますが、当人の委嘱につきましては市長の信任機関として条例に基づき行うものでありますので、市民会館を所管する教育委員会にご承知おきいただきたいということから、今回ご報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。

●天野教育長 ただいまの件に関し、何かご質問等はございませんか。

●各委員 ありません。

●天野教育長 なければ、その他1 美唄市民会館運営審議会委員委嘱については終わります。次に、その他2 令和元年第4回市議会定例会一般質問について事務局から報告をお願いします。

●森川教育部長 その他2 令和元年第4回市議会定例会の一般審議、一般質問についてご説明します。資料をご覧ください。日程につきましては12月3日本会議、6日、9日が一般質問、10日常任委員会、11日補正予算審査特別委員会、12日本会議で終了になっています。提出議案といたしましては「令和元年度美唄市教育委員会の活動状況に関する評価・点検」これは議案ではございません。報告事項として提出しました。それから議案としまして、総務・文教委員会につきましては「美唄市立学校設置条例の一部改正の件（南美唄小学校の廃止）」は議案としまして可決されています。その下の「美唄市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正

の件（栄幼稚園廃止条例の附則改正）」につきましては、提案いたしました但否決をされています。「美唄市営野球場条例の一部改正の件」これは使用料の改正ですが、可決をいただいています。人事案件につきましては「美唄市教育委員会教育長任命の件」それから「美唄市教育委員会委員任命の件」につきましてはご承認をいただいております。3番目、一般質問ですが、全部で8人の議員の方が一般質問に立ちまして、内、教育委員会関係につきましては、5人の議員の方が一般質問を行いました。それでは概要についてご説明いたします。

※一般質問（添付資料 別紙）

●天野教育長 ただいま、事務局から報告がありましたが、何かご質問等はありませんか。質問等ないようですので、その他2を終了します。以上で本日の議事については終了しましたが、他に何かありませんか。なければ、これをもちまして令和元年第16回美唄市教育委員会議を閉会いたします。ありがとうございました。

16:36 終了

以上会議の顛末を記載し、その相違無いことを証するためここに署名する。

署名委員 今野 曉子

別紙 1

教 育 長 報 告

自 令和元年 11 月 22 日

至 令和元年 12 月 25 日

区 分	会 議 等	
11月22日	美唄市政功労者表彰式	大会議室
22日	美唄市職員勤続表彰式	大会議室
22日	第 15 回美唄市教育委員会議	教育委員室
23日	栄幼稚園発表会	栄幼稚園
23日	琴エスワード懇親交流会	市内
25日	教育講演会	市民会館
27日	絵本寄贈（札幌地区トラック協会岩見沢支店）	市長応接室
27日	優良青少年・青少年健全育成功績者・功労者表彰式	市長会議室
28日	ライオンズクラブ少年団応援の会	ホテルスエヒロ
12月 2日	第 3 回空知管内市町教育委員会教育長会議	空知合同庁舎（岩見沢市）
2日	第 2 回空知管内学校における働き方改革推進協議会	空知合同庁舎（岩見沢市）
3日	第 4 回市議会定例会（～12 日）	議場ほか
3日	「栄誉を讃えて」表彰式	市長会議室
7日	2019 グリーン・ルネサンス推進事業シンポジウム	市民会館
11日	学校長面談（～12 日）	教育長室
16日	「確かな学力育成プランの具現化に向けて」答申	教育長室
19日	青少年育成基金運営委員会	第 4 会議室
21日	美唄駐屯地年末行事	美唄駐屯地
25日	令和元年度北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会	STVビル（札幌市）

上記のとおり報告する。

令和元年 12 月 26 日

美唄市教育委員会

教育長 天 野 政 俊

11 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
23	土				
24	日				
25	月				
26	火				
27	水				
28	木				
29	金				
30	土	びばいクライミングフェスタ2019	9:00	体育センター	市民

12 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
1	日				
2	月				
3	火	ベースボールアカデミーinびばい（～3/17）	16:00	総合体育館	市民
4	水				
5	木				
6	金				
7	土	2019グリーンルネッサンスシンポジウム	9:30	市民会館大会議室	市民
8	日				
9	月				
10	火	第9回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	関係者
11	水	第9回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
12	木				
13	金				
14	土	第二回美唄キッズ漢字検定	10:00	市民会館	市民
		おはなしの会ブックスタート（3歳児）	10:30	図書館児童室	市民
15	日				
16	月				
17	火				
18	水				
19	木				
20	金				
21	土	おはなしの会ブックスタート（3歳児）	10:30	図書館児童室	市民
22	日				
23	月				
24	火				
25	水				

1 月 行 事 予 定

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	所 管
1	水				
2	木				
3	金				
4	土				
5	日				
6	月	仕事始めの式	10:30	教育長室	学務課
7	火				
8	水				
9	木				
10	金	キッズアートスクール「木のおもちゃ作り」	1部 9:30 2部 13:00	東中学校	生涯学習・スポーツ振興課
11	土	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	生涯学習・スポーツ振興課
12	日	美唄市成人式	13:00	市民会館	生涯学習・スポーツ振興課
13	月				
14	火				
15	水				
16	木	第10回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	指導室
17	金				
18	土	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	生涯学習・スポーツ振興課
19	日				
20	月				
21	火				
22	水	第10回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	指導室
23	木				
24	金	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	生涯学習・スポーツ振興課
25	土				
26	日				
27	月				
28	火	第3回青少年指導員専任指導員会議	15:30	市長会議室	生涯学習・スポーツ振興課
29	水				
30	木				
31	金				

令和元年第4回市議会定例会

1 日程

月 日	曜日	会議別	事 項
12月3日	火	本会議	会期決定、副市長並びに教育長就任の宣誓、各種報告、各議上程
12月4日・5日	水・木	休 会	議案審査
12月6日	金	本会議	一般質問
12月7日・8日	土・日	休 会	
12月9日	月	本会議	一般質問
12月10日	火	休 会	常任委員会
12月11日	水	休 会	予算審査特別委員会
12月12日	木	本会議	委員長報告、単行案件上程、人事案件上程、決議案上程

2 提出議案（教育委員会分）

- ・令和元年度美唄市教育委員会の活動状況に関する評価・点検（平成30年度事業対象）
【総務・文教委員会】
- ・美唄市立学校設置条例の一部改正の件（南美唄小学校の廃止）
- ・美唄市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正の件（栄幼稚園廃止条例の附則改正）
- ・美唄市営野球場条例の一部改正の件
【人事案件】
- ・美唄市教育委員会教育長任命の件
- ・美唄市教育委員会委員任命の件

3 一般質問

順序	会派	質問者	質問要旨	質問日
1	令和議員会	川上 美樹議員	1 地域医療について	12月6日
2	みずほ議員会	松山 教宗議員	1 自転車の安全な利活用の推進について＜教育長答弁＞ （1）自転車利用の安全確保に関する取り組みについて （2）小中学校における安全教育の取り組みについて （3）サイクルツーリズムの推進における交通安全の確保について 2 地域おこし協力隊について 3 福祉行政について	
3	市民交流クラブ	伊藤 真久議員	1 栄幼稚園について＜教育長答弁＞ （1）栄幼稚園の将来性について （2）栄幼稚園の存続に関するパブリックコメント （3）管理運営について	
4	無会派	紫藤 政則議員	1 教育行政について＜教育長答弁＞ （1）新教育長の教育理念について （2）学校における「働き方改革」と勤務時間について （3）学校徴収金と公会計化について （4）就学援助（要保護・順要保護）の現状と課題について （5）刑事告訴について	

順序	会派	質問者	質問要旨	質問日
5	みずほ議員会	谷村 知重議員	1 農業行政について 2 教育行政について<教育長答弁> (1) 地元の高等学校について (2) 少年団活動等について (3) 美唄市教育の日について	12月9日
6	市民交流クラブ	山上他美夫議員	1 市立美唄病院建設について 2 ホテルスエヒロの経営問題について	
7	無会派	本郷 幸治議員	1 栄幼稚園について<教育長答弁> (1) 新聞報道について (2) 安全対策の実効性について	
8	市民交流クラブ	齋藤久美夫議員	1 防災行政について	

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

松山 教宗議員
教育委員会学務課

- 件 名 1 自転車の安全な利活用の推進について
- 中項目 (2) 小中学校における安全教育の取り組みについて

質問内容

ヘルメットの着用など、自転車の安全利用に関する小中学校における安全教育に現在どのように取り組んでいるか、また今後の取組の考え方について伺う。

答弁内容

(小中学校の自転車の安全教育について) であります、

小学校につきましては、これまでも市の交通安全推進員のほか美唄警察署などの協力をいただき、児童生徒が自転車を安全に利用するため、自転車の点検や交通安全青空教室、街頭指導、乗り方マナー講習等の交通安全指導を実施してきたところであります。

また、中学校につきましては、自転車の登下校の仕方を身に付けるとともに、交通事故の防止に関する指導を行ってきたところであります。

次に、ヘルメットの着用についてであります、安全な自転車利用を図るため、保護者に対して、引き続き、着用の理解を求めてまいりたいと考えております。

次に、今後の安全教育の取り組みについてであります、平成 30

年4月1日に、自転車の活用及び安全な利用の推進に関する施策を総合的に推進し、環境への負荷低減と道民の健康増進、観光振興等に資することを目的として「北海道自転車条例」が施行され、自転車利用者の責務が規定されたところです。この中で、

- ①関係法令の遵守、歩行者・自転車等に十分配慮した利用、必要な点検に努めること。
- ②乗車用ヘルメットの着用、夜間の自転車側面への反射機材の装着に努めること。
- ③自転車を利用する際に自然環境の保全への配慮に努めること。
- ④冬季における道路状況を考慮した適正な機材の装着等に努めることが定められましたので、これまでの交通安全指導を継続するとともに、条例の趣旨を学校を通じて保護者に周知してまいりたいと考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

伊藤 真久議員
教育委員会学務課

件 名 1 栄幼稚園について

中項目 (2) 存続に関するパブリックコメントについて

質問内容

①新聞報道にあった「怪文書」について

ア 市は事実を確認しているのか。

イ 今後、確認を行うのか。

ウ 事実が確認できた場合、パブリックコメントの集約に影響はあるのか。

答弁内容

(存続に関するパブリックコメントについて) であります。

パブリック・コメント制度は、賛成・反対の各意見の多寡で意思決定の方向を判断する住民投票類似の制度ではなく、政策や条例案の内容をより良いものにするための制度であり、多数意見も少数意見も一つの意見として扱うこととなっております。

①教育委員会といたしましては、新聞報道された内容については把握していないところであり、

②そのような事実があったかどうかについても、確認することはむずかしいものと考えております。

③また、意見の提出をいただいた方につきましては、責任の所在を明らかにするため、住所、氏名及び連絡先を明らかにして提出していただいておりますので、それぞれ1つの意見として取り扱いをさ

せていただいたところであり、提出いただいたパブリックコメントの内容には影響はございません。

今回の意見募集に際し、仮に条例案に反対を促す行動があったとしましたら、パブリックコメント制度の趣旨に反するものと考えております。

なお、今回提出のあった 381 件の意見に対し、市の考え方を文書にてご送付するとともに、市のホームページに掲載したほか、市役所ロビーや市民会館、図書館などに配置したところでございます。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

伊藤 真久議員
教育委員会学務課

件 名 1 栄幼稚園について

中項目 (3) 管理運営について

質問内容

①今後の管理運営について

ア 国から栄幼稚園に措置されている地方交付税（H30 年度におよそ 1,400 万円）は今後も継続できるか。

イ 栄幼稚園の施設は、旧栄小学校として日本遺産に認定されており、今後の保全をどう考えているか。

答弁内容

（今後の管理運営について）であります、

地方交付税につきましては、制度上、その他の教育費の項目におきまして、幼稚園児数を基礎数値として基準財政需要額が算出されることになっておりますので、今後も継続して、幼稚園児数に応じて、地方交付税が措置されることとなっております。

次に、旧栄小学校の木造 2 階建て校舎につきましては、1 階部分を幼稚園園舎として、また、2 階部分は美術館ギャラリーとして活用しており、美術館と幼稚園が共存する全国的にも他に類がない教育施設として、市内外から高い評価を受けています。

教育委員会といたしましては、この旧栄小学校の木造校舎が、炭鉱の歴史を後世に伝える貴重な文化財として、本年 5 月に日本遺産「炭鉄港」に認定されたことから、これまでの美術館や幼稚園園舎

としての維持管理はもちろんのこと、今後とも適切な保存に向けた修復などをしっかりと行っていく必要があると考えております。

件 名 1 教育行政について

中項目 (1) 新教育長の教育理念について

質問内容

天野教育長が目指す美唄の教育について、その基本的考え方、そして板東市長が所信表明演説で述べた教育への思いに対する評価について

答弁内容

(私の教育理念について) であります、

学校教育においては、ひとりひとりの子どもたちの力を伸ばして未来社会において力強く生きる力を育ててまいります。

また、生涯学習では、市民の方々が学び続ける中で、豊かな心や充実した生活を送るとともに、そこで培った力を子どもたちの学びに生かすなど学校教育と連動させ、地域総がかりで子どもを育ててまいりたいと考えております。

次に、板東市長の所信表明演説についてであります、農業体験を通して、地元美唄を認識するとともに、ふるさと美唄を大切に育てる心育てる、更に、変化の激しい未来社会において、たくましく生きる力を育てることは重要であると考えております。また、小中学校は、9 年を見通した指導が今後必要となり、更に、幼保も含めた指導の流れも今後重要となります。

私は、市長とともに、地域の未来を担う子どもたちの生きる力を育

みなながら、美唄のすばらしい環境を大切にした文化都市のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

「子どもは地域の宝」であり、美唄の未来・希望そのものであります。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

教育委員会学務課

件 名 1 教育行政について

中項目 (2) 学校における「働き方改革」と勤務時間について

質問内容

- ①長時間労働の実態、その要因、解消策
- ②給特法改正（案）にある教員に 1 年の変形労働時間制導入についての評価
- ③勤務時間管理のあり方と服務監督者としての役割

答弁内容

（学校における働き方改革について）であります、

①平成 28 年度に北海道教育委員会が実施した教育職員の時間外勤務等に係る実態調査において、小学校で 23.4%、中学校で 46.9% の教員が 1 週間当たりの勤務時間が 60 時間を超えている結果が出ており、本市においても同様の傾向があるものと認識しているところであります。その要因としては、学校を取り巻く環境の複雑化、多様化する教育課題の対応と考えており、長時間勤務の解消を図るため、昨年度、業務改善を進める方向を示した本市の「教職員の働き方改革アクション・プラン」を策定したところであります。

教職員の働き方改革を推進するため、統合型校務支援システムを導入し学校業務のスリム化を図り、子どもと向き合う時間の確保を図るとともに、出勤簿機能の活用による出勤状況の見える化を推進しているほか、今年度 8 月には「美唄市の部活動の在り方に関する方

針」を策定し、部活動の活動時間を平日は 2 時間程度、休日は 3 時間程度とし、休養日についても週 2 日を設定するなど、教員の負担軽減や勤務時間の適正化を進めているところであります。

また、教育の勤務時間の適正化につきましては、教員定数や少人数学級の拡充が重要であると認識しており、北海道都市教育委員会連絡協議会、全国都市教育長協議会を通じ、引き続き、北海道、国に対し要望をしてまいりたいと考えております。

②次に、教員の変形労働時間制については、教員の勤務時間の適正化を図るため、本市においても対象業務の拡大を行いながら取り進めてきているところです。今回、国の令和 3 年 4 月から施行を目指す 1 年単位の変形労働時間制については、長期休業中等の教員が比較的休日がまとめてとりやすい環境を整えることができますが、課題もありますので、今後、文部科学省が策定・公表する「教職員の業務量の適切な管理等に関する指針」について注視してまいりたいと考えております。

③ 次に、勤務時間の管理のあり方につきましては、学校長を通じて教員の状況を確認しながら、統合型校務支援システムの出退勤機能を活用し、教員の勤務状況の見える化を図り、服務監督権者として、教員の勤務時間の適正化に取り組んでまいります。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

再質問

教育委員会学務課

件 名 1 教育行政について

中項目 (2) 学校における「働き方改革」と勤務時間について

質問内容

給特法の改正に伴う「1 年単位の変形労働時間制」の導入について、美唄市でどのように進めていくのか伺う

答弁内容

（「1 年単位の変形労働時間制」について）であります、

文部科学省が公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法、いわゆる給特法の一部を改正し、教員の働き方改革の一環として、長期休業中等に教員がまとまった休日を取れる環境を整えることができる制度として理解しております。本市の導入にあたっては、今後の文部科学省から公表される「教育職員の業務量の適切な管理等に関する指針」に注視していくとともに、道教委や他の自治体の状況、本市の学校の業務、個々の教員の事情等を学校長から確認しながら進めてまいりたいと考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員
教育委員会学務課

件 名 1 教育行政について

中項目 (3) 学校徴収金と公会計化について

質問内容

- ①学校給食費・教材費等学校徴収金の実情と課題
- ②教材費の公費・私費区分のあり方
教材費について保護者の負担となっているのはどういったものか。
- ③公会計化の実施
教員の働き方改革のひとつの取組みとして国も積極的に推進しており、このきっかけを逃すことなく実現すべきであると考えてるので、お考えを伺う。

答弁内容

(学校徴収金と公会計化について) であります、

①②学校給食費・教材費等学校徴収金の実状と課題について、
学校給食費の徴収につきましては、給食を提供した翌月に学校給食センターから各学校へ請求し、各学校は保護者から金融機関の口座振替により収納した給食費を、学校給食センターが事務局を担当している学校給食運営協議会へ納める流れとなっております。給食費に未納が生じた場合は、学校が保護者に対し督促、納付相談を行うなど収納に努めており、年度を繰り越した給食費の未納分については、学校給食運営協議会の臨時徴収員と学校給食センター職員に

より対応しております。課題としましては、給食費の未納があることにより、保護者負担の公平性の観点での課題があると認識しております。

教材費等学校徴収金の実情についてであります。公費負担につきましては、授業に係る用紙、消耗品等となっており、保護者負担は、児童・生徒の所有に帰することになる、鍵盤ハーモニカ、習字セット、ワークブック、資料集、実験・実習材料費等となっております。

③公会計化の実施について、道内都市の学校給食費に係る会計区分の状況等につきましては、本年4月現在、本市を含む道内35市の内、公会計が18市で約51%、私会計が17市で約49%となっております。

文部科学省は本年7月、公立学校における学校給食費の徴収・管理に係る教員の業務負担を軽減することなどを目的として作成した「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」を公表しており、その中では、学校給食費の公会計化等により見込まれる効果として、

- ・教員の業務負担の軽減
- ・保護者の利便性の向上
- ・学校給食費の徴収・管理業務の効率化
- ・学校給食費の管理における透明性の向上
- ・学校給食費の徴収における公平性の確保
- ・学校給食の安定的な実施

が挙げられているところですが、公会計に移行した場合の事務量の増加による人員配置や徴収管理システムの開発及び運営経費、会計処理の方法など、整理すべき課題もありますので、今後、学校現場等の意見も十分に踏まえ、調査研究を行ってまいりたいと考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

再質問

教育委員会学務課

件 名 1 教育行政について

中項目 (3) 学校徴収金と公会計化について

質問内容

調査研究するとのことだが、本市においても、教員の働き方改革の観点から、学校給食費の徴収・管理業務の公会計化を推進すべきと考える。財源面の国の後ろ盾もつくと思われる。改めてお考えを伺う。

答弁内容

(学校給食費の公会計化について) であります、

教員の働き方改革についての中で出てきたものですが、保護者からの学校給食費の徴収・管理業務を地方公共団体が自らの業務として行うことにより、公立学校における学校給食費の徴収・管理に係る教員の業務負担を軽減すべきと示されているところであります。

道内都市における公会計化の実施率が 50 パーセントを超えている状況もあることから、今後、学校現場等の意見も十分に踏まえながら、学校給食費を公会計化する場合の課題整理に向けて検討していきたいと思います。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員
教育委員会学務課

- | | | |
|-----|-----|--------------------------|
| 件 名 | 1 | 教育行政について |
| 中項目 | (4) | 就学援助（要保護・準要保護）の現状と課題について |

質問内容

①制度の周知方法と改善

就学援助制度の周知方法について伺うとともに、支給時期などの改善に向けて取り組んでいることについて伺う。

②認定基準の検証と改善

就学援助制度について、世帯収入により認定を行う場合の認定基準について伺う。

答弁内容

（就学援助制度について）であります、

就学援助の周知方法については、広報誌等への掲載、学校から保護者への案内のほか、就学時健康診断の際に周知を行っているところであります。本制度は、経済的に厳しい世帯に対する支援として重要な役割を担っていることから、平成 30 年度より新入学児童生徒の学用品費等の入学前支給を実施してきたところであります。また、PTA 会費、生徒会費、クラブ活動費など、就学支援に係る 3 項目につきましては、30 年度では、道内 35 市のうち、3 項目全てを支援している市が 18 市、2 項目が 6 市、1 項目が 2 市となっており、支援していない市は本市を含め 9 市となっております。

また、本年度より国の要保護児童生徒援助費補助金の項目に卒業アルバム代が追加されましたが、本市では支援していないところです。

次に、認定基準につきましては、平成 19 年度以降生活保護基準の 1.15 倍に変更した以降、倍率の見直しを行っていないところではありますが、平成 25 年 8 月に実施された生活保護基準の見直しの際に、空知教育局を通じ、文部科学省から「生活保護基準の見直しに伴う他制度における経過措置等の円滑な実施に係る留意事項について」に係る情報提供についてで、これに伴い、他制度に影響が生じる可能性が指摘されていることから、政府としてはできる限りの影響を及ぼさないようにすることを基本的な考えとする対応方針を確認している旨の通知がありました。

このため、以前より就学援助を受けていた方の所得や家族の状況が変わらない場合は、これまで同様に受給できるよう予算措置をしているところです。

本制度が学校教育法に基づき、経済的理由によって就学困難と認められる児童・生徒の保護者に対し、必要な援助を行うものでありますので、今後においても、予算の拡充に向けて十分検討してまいりたいと考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

再質問

教育委員会学務課

件 名 1 教育行政について

中項目 (4) 就学援助（要保護・準要保護）の現状と課題について

質問内容

子どもの貧困対策として、就学援助制度は重要であると考えてるが、制度の改善と拡充について新ためて考えを伺う。

答弁内容

（就学援助制度の改善と拡充について）であります。

本制度が学校教育法に基づき、経済的理由によって就学困難と認められる児童・生徒の保護者に対し、必要な援助を行うものであることから、生活保護基準の見直しに伴う就学援助制度に生じる影響が起こらないよう取り組む他、PTA 会費、生徒会費、クラブ活動費、卒業アルバム代の予算化に向け引き続き検討するとともに、認定基準の拡充に向け市長部局と協議して参りたいと考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

件 名 1 教育行政について

中項目 (5) 刑事告訴（2018 年 3 月 2 日）について

質問内容

一つ目に、平成 30 年 3 月に刑事告訴した件についての、その後の動きと、前回の一般質問において指摘した刑事告訴の取り下げ、補助金の返還措置について、教育長が変わり、新しい体制の中、現在の考え方について伺う。

二つ目に、美唄市民劇場の設立と美唄市文化協会の法人化について、少なからず教育委員会がかかわっていたものと考えているが、美唄市民劇場の設立経過と市教委のかかわり、NPO 法人美唄市文化協会の法人化した経過と市教委のかかわりについて伺う。

答弁内容

（刑事告訴について）であります、

はじめに、平成 30 年 3 月に刑事告訴した件についてのその後の動きについてであります、先月、美唄警察署から本件に対する確認として、担当課に事情聴取がありましたので、捜査については進んでいるものと推測しております。

次に、本件に対する刑事告訴についてであります、私としましては、現在、警察において捜査中でありますので、今後、出される予

定の捜査結果により、必要な対応をしてまいりたいと考えております。

次に、補助金の返還請求についてであります。美唄市民劇場が知れない中で美唄市民劇場の名称を使い教育委員会へ補助申請したものであったことから、美唄市民劇場に対して補助金の返還請求ができないものと判断しております。また、この件については、現在、警察において捜査中でありますので、今後、出される予定の捜査結果により、必要な対応をしてまいりたいと考えております。

次に、美唄市民劇場の設立経過と市教委のかかわりについてであります。美唄市民劇場規約によると、平成15年4月17日に設立、事務局は市民会館内となっていました。

設立経過や教育委員会とのかかわりについては承知していませんが、平成15年度から美唄市民劇場からの舞台公演等の事業に係る補助金交付申請に基づき、市民会館文化補助事業補助金を交付しており、平成26年度まで美唄市民劇場が公演する事業に対して補助金を交付していました。なお、美唄市民劇場は、平成30年1月17日で解散したことを確認しております。

次に、NPO法人美唄市文化協会の法人化についての経過と市教委とのかかわりについてであります。平成19年度の公民館、市民会館の指定管理を受託するまでは、美唄市文化協会の事務局が教育委員会にあり、事務局としてのかかわりはありましたが、平成18年10月18日にNPO法人美唄市文化協会が設立された経緯については承知していないところです。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

再質問

教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

件 名 1 教育行政について

中項目 (5) 刑事告訴（2018 年 3 月 2 日）について

質問内容

新しい教育長が、刑事告訴について、これまでの経過や課題をどれくらい聞いていたかわかりませんが、私は 2 点について話をしましたが、それ以外の様々な疑念が出されております。

それらの全容をつかんでおいでになるかお尋ねしたいと思います。

答弁内容

（全容について）であります、

私は、大まかな内容は押さえておりますが、簡単に理解できない深い内容もありますので、さらに理解を深めてまいりたいと考えており、早く解決していきたいとも考えております。そうすることが、社会教育、文化部門、サークルで活動されている方などにつながるようになって考えております。ご了承いただければと思います。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

紫藤 政則議員

再々質問

教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

件 名 1 教育行政について

中項目 (5) 刑事告訴（2018 年 3 月 2 日）について

質問内容

刑事告訴について絞って、次の 2 点についてお伺いしたいと思います。

- ・返還請求できない理由について
- ・市民劇場が知りえないのに市民劇場の名前を使ったということについて

答弁内容

（返還請求ができない理由について）でありますが、

一般的な例で、補助金の不正受給に該当する場合、その申請をした方、または団体に対して補助金の返還を求めることとなりますが、今回の件につきましては、美唄市民劇場が知りえない中で、美唄市民劇場の名称を使い、申請等を行ったというものでありますので、美唄市民劇場に対して返還請求はできないものと判断しているところであります。

市民劇場の名前を使ったということにつきましては、平成 26 年に教育委員会が美唄市民会館文化補助事業補助金としまして交付した、イリス弦楽四重奏団美唄コンサートの事業につきまして、平成 30 年 2 月 7 日に、当時の市民劇場の関係者 3 名より調査依頼を

受けまして、聞き取り調査や関係帳簿の調査を行ったところです。この内容につきましては、26 年当時、市民劇場の会長であって、さらに美唄市文化協会の理事長であった方、並びに当時、市民劇場の会員であり、文化協会の職員であった関係者に調査を実施しました。市民劇場の代表者、文化協会の代表者がいて、市民劇場の事務局会員と文化協会の職員がいました。そのような中で補助申請が行われ、市民劇場の名前で出されました。

調査の結果、当時の会長から、書類は当時の会員が作成しまして、補助申請や経理の内容を含め、詳細な内容は分からないとの説明がありました。当時書類を作成した関係者からは、平成 26 年当時、美唄市民劇場が活動していなかったため、「市民劇場の会員 2 名に話した上で補助申請をしたので、当時の市民劇場が知らないということにならない」という申し立てがありました。この申し立てにつきましては、平成 29 年度に開催されました「市民劇場総会資料」に当該事業の記載がないこと、さらには、「話をした」という 2 名の市民劇場の当時の会員へ聞き取りをしたところ、2 名とも「その事実はない」と確認をしたところです。

こうした調査内容を踏まえまして、関係書類等を調査した結果について、調査依頼のとおり、通帳の入金出金の記録、会計帳簿、市民劇場から文化協会へ当該預金が移動されていることなどが判明しまして、領収書の改ざんの事実も確認されたところです。当時の教育委員会で、確認事項に基づきまして、弁護士に相談したうえで、補助金手続きに関与した関係者 2 名により、名前をかたって補助申請をした可能性があるということで、3 月 2 日に美唄警察署へ訴状を提出したところでございます。

また、その後におきまして、詐欺罪横領罪の可能性があるということで、法制担当や弁護士と相談したところ、書類不備の指摘に伴いまして、訴状の内容を整理する中で、横領罪の適用の可能性が低いということから、詐欺罪ということで 7 月に再提出したところでございます。

再々々質問

教育委員会として、文化協会の活動というのは、しんどくて停滞していたけれども、市民劇場の名前で文化事業に対して、補助金を出すことについて、内諾を受けて出したという情報があります。語ったというレベルではないと思います。どうやれば補助金の目的に沿う内容なのか。

市役所の職員が係っています。なぜかというと、市民が文化を進めよう、芸術に触れる場を作ろうということで、市の職員が頑張ったのではないのでしょうか。

今でも、コンサートなどがあったら、手伝う人がいるじゃないですか。

なぜそのような視点にならないのですか。

咎人に仕立てようとしているときに、状況確認をしていないのではないか。なぜ1時間で調査できるのでしょうか。

このことを、どういう目で見られるのか、再度この事件について、検証をお願いしたいと思います。

答弁

議員の指摘で、「内諾を得た」というお話がありましたが、私のところでの確認では、そのような事実はないところです。先ほど申しました経過の中で、教育委員会議、弁護士との相談の上で、訴状を提出したという経過です。

現在、警察において捜査中でございますので、その結果によりまして、必要な対応を考えてまいりたいと思います。

谷村 知重議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (1) 地元の高等学校について

質問内容

- ①市内にある 2 つの高等学校の間口状況について
- ②過去 5 年間の入学状況と地元の入学者数について
- ③高校への支援状況について

答弁内容

(市内高等学校の間口の状況について) であります。

①今年度、2 校とも 2 学級 80 定員の入学者の受入を維持しており、本年 9 月に北海道教育委員会で決定された令和 2 年度から 4 年度の「公立高等学校配置計画」では、今年度と同じ学級数を維持できる計画となっております。

②次に、市内高等学校の過去 5 年間の入学状況につきましては、美唄尚栄高等学校は、平成 27 年度は 93 名、平成 28 年度 94 名、平成 29 年度 62 名、平成 30 年度 64 名、平成 31 年度 63 名で、そのうち市内からの入学者数については、平成 27 年度 58 名、平成 28 年度 47 名、平成 29 年度 41 名、平成 30 年度 28 名、平成 31 年度 37 名となっております。また、美唄聖華高等学校の入学状況については、平成 27 年度 79 名、平成 28 年度から平成 31 年度まで 80 名で、そのうち市内からの入学者数については、平成 27 年度、28 年度、31 年度は 5 名、平成 29 年度、平成 30 年度は 4 名となっております。

③次に、高校への支援につきましては、青少年育成基金を活用した高校の教育活動に要する経費の一部の支援を行っており、平成 30 年度は生徒の進学模擬試験、資格取得に係る検定料等や学校の P R 活動に係る経費の一部を補助したところです。また、地元高校への理解を深めていただくため、中学校の進路指導に活かすことを目的とした、市内高校と中学校の進路指導に関する懇談会の開催など、地元からの入学率を上げるための取組みを進めているところであります。

谷村 知重議員

再質問

教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (1) 地元の高等学校について

質問内容

近年の美唄尚栄高等学校の入学者数をみると、現在の間口を維持していくことにも危機を感じます。この状況を受け、今後、どのように高校の定員を確保していくのか伺う。

答弁内容

(美唄尚栄高校の定数の確保について) であります。

美唄尚栄高校は、総合学科というほかの高校とは違う特徴を持っていて、必修の科目に加え、自分で科目選択して受ける授業を決められるというもので、目安として、普通科中心の文理教養系列、農業食品加工関係のフード系列、工業科目中心のメカトロエンジニア系列、商業科目中心の情報通信マネジメント系列、家庭科目中心のデザイン系列の 5 つの系列があり、自分の将来を実現するために必要な授業を自分で選択して、学ぶことができる自由度の高さが特徴です。また、進学や就職ともに、様々な進路があり、大学や短大に進みたい人、就職を希望している人など、様々な進路に対応が可能な高校であります。

このほか、美唄尚栄高校に統合する前の美唄東高校時代に培った道内私立大学等の指定校推薦枠のほか、美唄工業高校、美唄南高校時

代から培った学校指定求人もあり、平成 30 年度の進路決定は進学者約 4 割、就職者約 6 割で、卒業生の進路は 100% 決定しており、こうした実績等がありますが、今年度の美唄尚栄高校の入学者について申しますと、定員 80 名に対し 63 名の入学者であるほか、1 年生から 3 年生までの全体の市内進学者は約 5 割という状況にあるところです。

教育委員会といたしましては、中学校卒業生数が減少していく中、定員を確保していくためには、それぞれの高校における教育活動を理解してもらい、学校の魅力を知ってもらうことが必要であると考えておりますので、尚栄高校の施設・設備を利用した市内中学校との授業交流、小中高の連携での学習会、市内の中学生の 1 日体験入学や部活動の交流などを引き続き、実施してまいります。

また、尚栄高校が、空知唯一の総合学科であり、将来の職業生活を見据えた教育活動を推進し、生徒一人一人に応じた選択科目を学べるができることや大学の指定校推進枠も充実していることなど、市内中学校の保護者の方に PR するとともに、農業体験学習などを通して小学校からの交流を深めてまいりたいと考えております。

高校存続は、教育委員会だけの取組ではなく、まちづくりや市内高校卒業生の雇用対策を担う担当課など、関係する部局が綿密に連携していくことが重要であると考えております。

このため、尚栄高校の特色ある教育活動の紹介や特色ある教育活動が広く理解され、生徒数の確保につながるよう、市長部局とともに、市全体で必要な対応について、協議、検討を進めてまいりたいと考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

谷村 知重議員

教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

件 名 2 教育行政について

中項目 (2) 少年団活動等について

質問内容

本年度より、少年団等が大会出場する際の補助制度を拡充したと思うが、その実績について伺う。

答弁内容

(少年団等の大会出場への補助制度について) であります。
美唄市文化・体育大会派遣補助事業として、少年団等が全国大会以上に出場する際に係る経費の一部を補助するものでしたが、平成 31 年度から、交付要綱を改正し石狩、空知管内を除く開催地で実施される全道大会出場まで拡充したところであり、本年 5 月号の広報メロディーにおいて周知したところであります。

補助金の交付実績につきましては、これまで同様の全国大会以上に出場する少年団等からの交付申請はあるものの、現時点での全道大会出場に対する補助金の交付申請はないところであります。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

谷村 知重議員

再質問

教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

件 名 2 教育行政について

中項目 (2) 少年団活動等について

質問内容

今年度から拡充した全道大会出場分の補助申請がないとのことでしたが、結果として対象となる大会出場がなかったものなのか、制度が知られていないのかわからないですが、どのように受け止めていますか。

少年団等に対して、大会出場経費の負担軽減になる有効な制度だと思うので、原因分析の上、少年団等の子どもたちのためになるよう事業活用してほしいと思いますので、教育長のお考えを伺います。

また、教育全般について、教育長の考えについて伺います。

答弁内容

(今年度拡充した美唄市文化・体育大会派遣補助事業について)
であります。

近年の対象となる全道大会出場結果では延 10 大会で約 150 人でありました。全道大会に対する補助金申請がないことにつきましては、周知不足と考えているところであります。今後においては、広報紙での周知のほか、直接、少年団等へ補助金制度についてご紹介するなど周知に努め、対象となる大会へ出場する少年団等への支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、美唄市の教育についてですが、

教育の目的は、個人の能力を最大限に伸ばし、国や社会・地域の担い手として必要な資質・能力を育むことと私は思います。

「まちづくりは人づくり」と言われますように、学校教育はもちろんのこと、地域社会全体で、ふるさと美唄の未来を拓いていく人材の育成が重要であり、教育の果たす役割は、ますます大きくなるものと考えております。

先にも答弁いたしました但、美唄市教育の日での「美唄市地域一斉参観日」の取組や各学校の行事などにおいて、多くの市民の皆様に学校へ足を運んでいただき、地域参加型により、より地域に開かれた学校をつくり、子供を育てていきたいと考えます。

そうしたことを鑑み、学校教育と社会教育を両輪としながら、学校教育の推進と生涯学習の振興を中核に据えて、教育行政の推進に当たってまいりたいと、決意を新たにしているところです。

美唄市の教育行政の代表として、誠心誠意、全力を尽くす所存です。

谷村 知重議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (3) 美唄市教育の日について

質問内容

毎年 11 月 1 日が「北海道教育の日」となっており、本市においても「教育の日」を定め、4 年目となっております。

美唄市教育の日の取組として「美唄市地域一斉参観日」に関して、

①今年度の状況について

②不審者対策について

③今後の取組について

お伺いします。

答弁内容

(美唄市教育の日「美唄市地域一斉参観日」) であります。

11 月 1 日の美唄市地域一斉参観日は、学校での子どもたちの活動を市民が参観し、学校教育への理解を深めていただくとともに、学校と地域とが連携を強めながら、「地域が育む「びばいっ子」の教育」の具現化を図ることを目的として開催しているものです。

①今年度は、延べ 613 名の市民の皆様に参加していただき、参加された方々からは、「久しぶりに子供たちの様子を見させていただきました。これからの美唄が頼もしい!」「他の学校やクラスを自由に見ることが新鮮です。」「来年は、たくさんの教室を見に行きたいと思います。」など、好意的な御意見を多数いただいたところ

であります。

②また、実施に当たっては、所定の時間内であれば、いつでも、誰でも学校に行き、授業をみることができるという性質上、最善、最良のセキュリティー対応を行い、子ども達の安心・安全管理には最高の配慮が必要であることから、各関係団体様のご協力で、総勢54名のボランティアにより、受付業務のほか、校内巡視を適宜行うなどの協力を頂いたところであり、このように多くの市民の皆様のご協力で、所期の目的を達成することができていると考えているところであります。

③教育委員会といたしましては、更に多くの皆様に参加を頂けるように本事業の充実に向け、今後も継続的に取り組んで参る所存でございます。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

本郷 幸治議員
教育委員会学務課

件 名 1 栄幼稚園について

中項目 (1) 新聞報道について

質問内容

新聞報道について

栄幼稚園について、閉園時期を 3 年間延期する条例改正を提案することを決めたとの報道があった。

3 年間延期とするのであれば、今回実施したパブリックコメントの回答に閉園延期の趣旨を示すべきと考える。

3 年間延期とした協議経過と内容について伺う。また、最終的に 3 年延長とした根拠を伺う。

答弁内容

(栄幼稚園の閉園時期の延長について) であります。

これまで、栄幼稚園の存続や閉園につきまして、教育委員会の中で様々な視点から検討してきたほか、同園の安全対策やパブリック・コメントに提出された様々な意見も参考に、意見交換等を行ってきたところであります。

教育委員会での協議のなかでは、

- ・ 栄幼稚園の予算を小中学校の ICT 関連予算の充実を図るべき。
- ・ 閉園を決定した際は、あまりに拙速だったことから、もう一度立ち止まって考えてみてはどうか。

・閉園を存続とする条例案については、もう少し時間をかけて閉園するか存続するかの議論をする時間が必要との意見が出されました。

更に、パブリックコメントの結果 381 件という多くの意見が寄せられ、様々な市民の皆様のご意見を踏まえ、存続又は閉園などについて、今後、市民の皆さんと議論を重ねる時間が必要であると判断し、11 月 22 日に開催いたしました第 15 回教育委員会議において、栄幼稚園を「存続」とする改正条例案から「閉園時期を 3 年間延長」とする改正条例案とすることを決定したものでございます。

次に、3 年間延長とした理由といたしましては、

- ・市民のみなさんと議論するのに必要な期間であること。
- ・現在在籍している園児が全員卒園できること。

更に、特別支援教育など公立幼稚園としての役割

- ・保育園、私立幼稚園、小学校との連携に関する取組
- ・幼児教育センター的機能や教員間の連携及び合同研修など

栄幼稚園の「幼児教育」について、検証する時間が必要であると考えております。

平成 31 年 第 4 回 定例会一般質問

本郷 幸治議員

再質問

教育委員会学務課

件 名 1 栄幼稚園について

中項目 (1) 新聞報道について

質問内容

栄幼稚園の閉園については、当時の教育委員会と保護者の中で閉園に向けての説明会を何度か協議した後に、パブコメを実施し、議会議論を経て結果として、閉園という苦渋の決断に至ったと承知しておりますが、又閉園後の、入園児募集内容や、今後の方向性も具体的に決まっております。

ただいまの答弁を聞いても、3 年延長する根拠がわかりません。仮に、来年 3 月に閉園するとしたら市長の公約が果たされない、しかし存続とすれば、存続反対が多かったパブコメの意見と合致しない、だからその折衷案として、存続でもない、閉園でもない、3 年間延期という極めてあいまいかつ中途半端な結論を題したのではないかと思わざるを得ないところです。3 年延期といえば、板東市長の任期最終年でもあります。そのために 3 年延期の根拠について教育長にお聞きします。あわせて、3 年延期の判断が、栄幼稚園の存続、閉園の選択の中でベストな判断であるとお考えですか。教育長の率直なお考えをお聞きします。

答弁内容

(栄幼稚園については、) であります、

昭和 30 年の開園から、65 年に渡り、笑顔あふれる生き生きとし

た子どもたちを育み、園児、保護者との厚い信頼関係のもとに、地域住民に支えられながら、特別な支援を必要とする子どもとのインクルーシブ教育の実践や空知の公開研究会を開催するなど、本市が北海道における公立幼稚園の先進地として果たしてきた歴史とともに、先人の並々ならぬ苦労のもと、財政事情をはじめ多くの問題を克服しながら、今日にいたっているものと考えております。

栄幼稚園につきましては、すでに閉園を決定しておりましたが、同園は、アルテピアッツァ美唄の景観と一体化した安らぎと心和む空間を形成し、自然や彫刻と触れ合う中で、子どもたちの情操を育みながら幼稚園教育を行っており、本市の特徴的な幼児教育として評価されているところであり、こうした全国的にも、あまり類をみない本市の特徴ある栄幼稚園を残していこうとするものであります。教育委員会といたしましては、閉園を存続とする条例案については、パブリックコメントの結果 381 件という多くの意見が寄せられ、様々な市民の皆様のご意見を踏まえ、存続又は閉園などについても少し時間をかけて閉園するか存続するかの議論をする時間が必要であると判断し、3 年間閉園時期を延長したところでございます。3 年間延長とした理由といたしましては、

- ・現在在籍している園児が全員卒園できること。

更に、特別支援教育など公立幼稚園としての役割

- ・保育園、私立幼稚園、小学校との連携に関する取組
- ・幼児教育センター的機能や教員間の連携及び合同研修など

栄幼稚園の「幼児教育」について、検証する時間が必要であると考えております。

また、市民有志による「栄幼稚園存続をかなえる会」においては、署名活動が行われ、同園存続に向けた 4,400 件を超える署名が 12 月 2 日に提出されました。市民の皆さんが美唄の将来の担い手である子どもたちに対する教育に非常に大きな関心と期待を寄せられており、この思いをしっかりと受け止めなければならないと考えているところであります。

件 名 1 栄幼稚園について

中項目 (2) 安全対策について

質問内容

園児の安全対策について

不審者対策やクマ対策について、NPO や関係機関との連携を密にしていくと答弁をしており、NPO とどのような協議をしてきたのか、あわせてその実効性について伺う。

答弁内容

(不審者・クマ対策について) であります、

はじめに、不審者対策については、NPO 法人アルテピアッツァびばいなどとの関係機関と連携を密にしながら、園児の見守りに必要な対応を行い、しっかりとした安全対策を図ってまいります。

次に、クマ対策について NPO 法人アルテピアッツァびばいでは、専門家の意見を聞きながら、クマとの共生等の対応を行ってきており、熊の出没情報があった場合には、爆竹を数回鳴らすほか、職員による巡回の回数を増やすなど関係機関と十分な連携を図りながら必要な対応に努めてきたところであります。

次に、NPO 法人との協議についてであります、今後さらに連携体制が図れるよう職員の体制の充実や幼稚園に防犯カメラの設置などについて協議を行っているところであります。

いずれにいたしましても、しっかりとした安全対策を図り、万全を期してまいります。